

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年6月26日
【事業年度】	第42期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）
【会社名】	株式会社クレオ
【英訳名】	CREO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 阿南 祐治
【本店の所在の場所】	東京都港区港南四丁目1番8号
【電話番号】	03(5769)3640(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員財経管理室長 雨田 高志
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南四丁目1番8号
【電話番号】	03(5769)3640(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員財経管理室長 雨田 高志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第 38 期	第 39 期	第 40 期	第 41 期	第 42 期
決算年月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月
売上高 (百万円)	9,497	9,856	11,044	11,387	11,425
経常利益 (百万円)	42	366	439	274	380
当期純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	339	404	356	44	213
包括利益 (百万円)	339	404	358	57	242
純資産額 (百万円)	3,901	4,325	4,612	4,602	4,799
総資産額 (百万円)	5,738	6,512	6,533	6,782	7,159
1株当たり純資産額 (円)	439.69	485.45	524.89	527.37	549.99
1株当たり当期純利益又は当期純損失 ( ) (円)	38.31	45.61	40.48	5.06	24.66
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	67.9	66.0	70.1	67.3	66.5
自己資本利益率 (%)	8.4	9.9	8.0	1.0	4.6
株価収益率 (倍)	-	5.0	9.0	65.8	15.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	280	1,495	93	978	772
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	220	401	654	686	322
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4	13	81	67	44
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	2,485	3,566	2,923	3,148	3,553
従業員数 (人)	922	948	1,040	1,004	1,024
(外、平均臨時雇用者数)	(4)	(1)	(1)	(2)	(2)

(注) 1. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含まれておりません。

2. 第39期、第40期、第41期および第42期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第38期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、1株当たり当期純損失が計上されているため記載しておりません。

4. 第38期の株価収益率については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第 38 期	第 39 期	第 40 期	第 41 期	第 42 期
決算年月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月
売上高 (百万円)	7,358	114	170	207	294
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	30	12	44	48	9
当期純利益又は当期純損 失 ( ) (百万円)	314	310	91	165	47
資本金 (百万円)	3,149	3,149	3,149	3,149	3,149
発行済株式総数 (千株)	9,237	9,237	9,237	9,237	9,237
純資産額 (百万円)	3,770	4,080	4,096	4,202	4,230
総資産額 (百万円)	5,168	4,144	4,164	4,248	4,400
1株当たり純資産額 (円)	425.38	460.60	469.29	485.38	488.75
1株当たり配当額 (円)	-	5	5	5	5
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又 は当期純損失 ( ) (円)	35.42	35.08	10.37	19.08	5.44
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.0	98.5	98.4	98.9	96.1
自己資本利益率 (%)	8.0	7.9	2.2	4.0	1.1
株価収益率 (倍)	-	6.5	35.2	17.5	68.9
配当性向 (%)	-	14.3	48.2	26.2	91.9
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	578 (4)	1 (-)	2 (-)	1 (1)	17 (1)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

- 第39期、第40期、第41期および第42期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 第38期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、1株当たり当期純損失が計上されているため記載しておりません。
- 第38期の株価収益率および配当性向については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。
- 第39期の従業員数が前事業年度末に比べて577名減少しておりますが、これは主として当社が純粋持株会社制へ移行したことによるものであります。

2【沿革】

年月	沿革
昭和49年3月	港区南青山に資本金5百万円にて 株式会社東海クリエイト 設立
昭和55年5月	パソコン用パッケージ分野へ進出
昭和56年6月	関西営業所開設
昭和58年11月	日本語ワープロソフト『ユーカラ』シリーズ販売開始
昭和60年11月	AT&T社とUNIX SYSTEM Vのソースライセンス契約を締結
昭和61年9月	100%子会社として、株式会社クリエイトラボ設立
平成元年3月	通商産業大臣システムインテグレータ認定
平成元年4月	社名を 株式会社クレオ に変更
平成元年6月	コンポーネント型ソフト『BUSI COMPO』販売
平成2年9月	株式店頭公開、資本金22億6千万円に増資
平成2年10月	毛筆印刷ソフト『筆まめ』シリーズ販売開始
平成5年2月	オープン環境における本格的業務パッケージ『CREO Business Manager Series』（CBMS）販売開始
平成6年5月	「Microsoft SOLUTION PROVIDER」契約を締結
平成7年10月	毛筆印刷ソフト『筆まめVer.6』 Windows 95対応版販売開始
平成10年12月	ISO9001認証取得（産業系SI部門）
平成11年4月	名古屋営業所開設
平成11年9月	本社事務所移転（東京都港区高輪）
平成12年6月	Webサイト「筆まめ ネット」開設
平成13年11月	デジカメ写真印刷ソフト『デジカメの横綱』を販売開始
平成13年12月	デジカメ写真印刷ソフト『ピクチャミクス』を販売開始
平成14年7月	インターネット会議システム「FACE Conference <sup>TM</sup> 」を発売
平成14年8月	第三者割当増資により資本金23億3千万円に増資
平成15年5月	全国紙の新聞紙面管理システム構築
平成16年11月	会計システム『CBMS ZeeM会計』を販売開始
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成17年1月	ヤフー株式会社と資本提携ならびに業務提携、資本金31億4千万円に増資、筆頭株主がヤフー株式会社に異動
平成17年7月	人事給与システム『CBMS ZeeM人事給与』を販売開始
平成17年8月	新たなコーポレートブランドと企業理念を設立
平成18年2月	ウエディングペーパーアイテム作成ソフト『筆まめBridal』販売開始
平成18年9月	ISMS認証取得
平成19年4月	株式会社アルプス社と業務提携
平成19年5月	株式会社ネットジーンを合併、モバイル事業部新設
平成19年6月	業務パッケージにおける新たなビジネスブランド“ZeeM”を発表
平成19年8月	「Yahoo! JAPAN」のオペレーションセンター開設
平成20年3月	写真・イラスト素材サイト『筆まめonline』オープン
平成20年5月	地図ソフト『プロアトラスSV4』発売開始
平成20年6月	株式会社インテックホールディングスと業務提携
平成21年4月	子会社、株式会社クレオスマイル（現 株式会社クレオネットワークス）の設立
平成23年4月	4月1日付で株式会社クレオは持株会社となり、ガバナンス及び株式関係に関する事業を除くすべての事業を新設分割設立会社3社（株式会社クレオマーケティング、株式会社クレオソリューション、株式会社筆まめ）、吸収分割承継会社1社（株式会社クレオネットワークス）に移管承継し、既存子会社1社（株式会社クリエイトラボ）を含む6社にてグループの新体制を発足
平成23年12月	本社事務所移転（東京都港区港南）
平成25年3月	ヤフー株式会社からアマノ株式会社への当社株式一部譲渡により、筆頭株主がアマノ株式会社に異動
平成25年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の経営統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に市場変更
平成26年3月	創業40周年
平成26年5月	アマノ株式会社と業務提携

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、純粋持株会社である当社と事業を営む連結子会社8社により構成されており、事業は製品・サービス別にクレオマーケティング事業、クレオソリューション事業、筆まめ事業、クレオネットワークス事業、クリエイトラボ事業の形に区分しております。

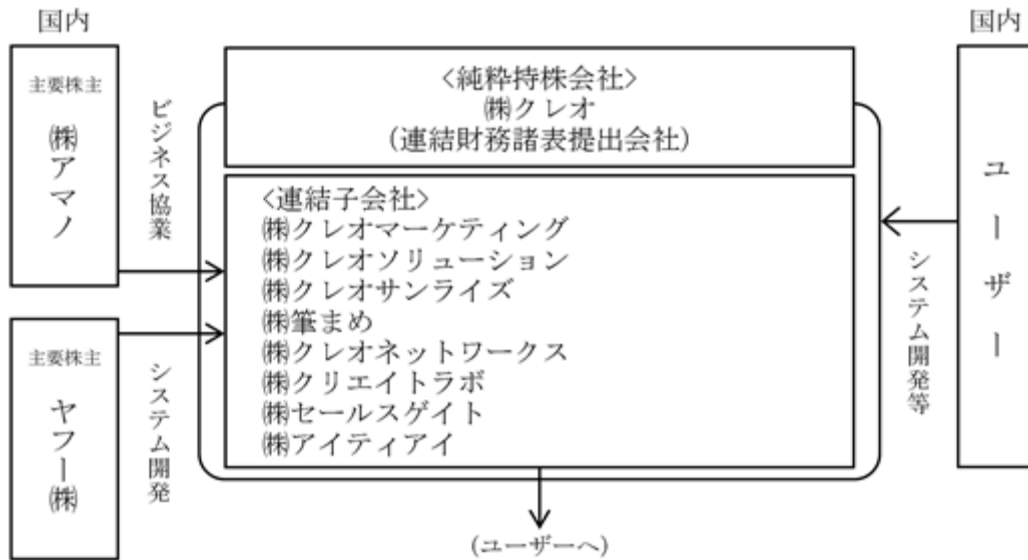
なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

事業内容と各社の当該事業にかかる位置付けは、次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する子会社)	主要な事業の内容
クレオマーケティング事業 (株式会社クレオマーケティング)	ZeeM/CBMS製品等の基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供
クレオソリューション事業 (株式会社クレオソリューション 株式会社クレオサンライズ)	システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発
筆まめ事業 (株式会社筆まめ)	はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売
クレオネットワークス事業 (株式会社クレオネットワークス)	ICT基盤サービスプラットフォームの提供とBPMツールの開発・販売
クリエイトラボ事業 (株式会社クリエイトラボ 株式会社セールスゲイト 株式会社アイティアイ)	ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス

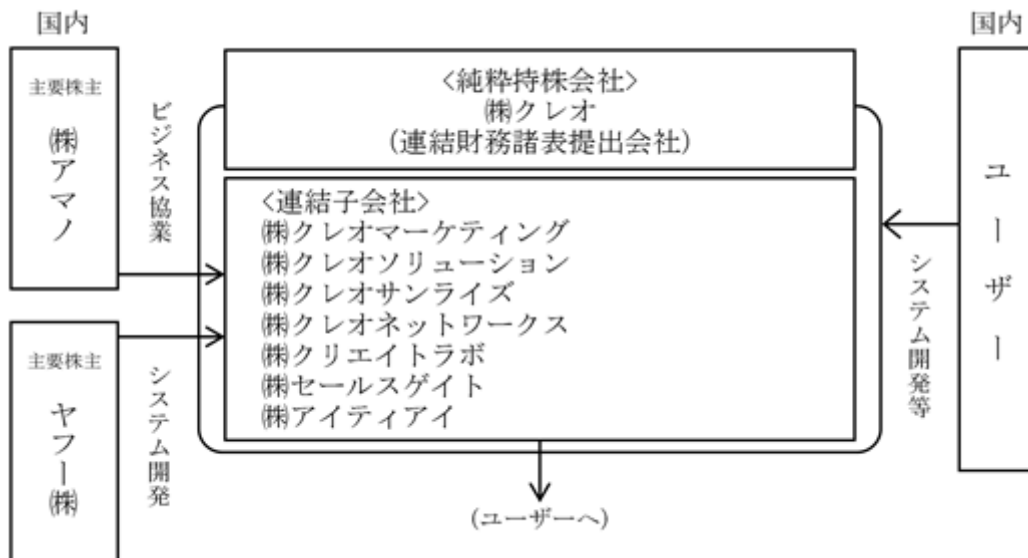
(注) 株式会社筆まめは、平成27年4月20日付で全株式譲渡を実施し、グループ会社から外れております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。  
(平成27年4月19日まで)



(平成27年4月20日より)

当社は、平成27年4月20日をもって、株式会社筆まめの全株式を株式会社F P Jに売却し、同社は当社の子会社ではなくなりました。同社株式売却により、当社の企業集団の状況は次のとおりとなります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万 円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合又は被所 有割合(%)	関係内容
(株)クレオ	東京都港区	3,149	持株会社	-	-
(連結子会社)					
(株)クレオ マーケティング (注)1、6	東京都港区	100	ZeeM/CBMS製品等の基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供	100	役員の兼任あり。 資金援助あり。
(株)クレオ ソリューション (注)1、6	東京都港区	100	システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発	100	役員の兼任あり。 資金援助あり。
(株)クレオ サンライズ (注)2	東京都港区	10	熟練者の知識と経験を活かしたサービス展開と新たなサービスの創出	100 (100)	役員の兼任あり。
(株)筆まめ (注)8	東京都港区	100	はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売	100	役員の兼任あり。 資金援助あり。
(株)クレオ ネットワークス	東京都港区	100	ICT基盤サービスプラットフォームの提供とBPMツールの開発・販売	100	役員の兼任あり。 資金援助あり。
(株)クリエイトラボ (注)1、3、4、6	東京都品川区	140	ヘルプデスクを中心としたサポート&サービス	97.5 [2.5]	役員の兼任あり。
(株)セールスゲイト (注)2、3、5、7	東京都品川区	90	コールセンターアウトソーシングを中心としたサポート&サービス	94 (94) [6]	役員の兼任あり。
(株)アイティアイ (注)2、3	東京都品川区	24	システムの開発、運用、保守を中心としたサポート&サービス	90 (90) [10]	役員の兼任あり。 資金援助あり。
(その他の関係会社)					
アマノ(株) (注)9	横浜市港北区	18,239	時間情報事業、パーキング事業、環境事業、クリーンシステム事業等	被所有 30.8	役員の兼任あり

(注)1. 特定子会社に該当しております。

2. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。

3. 議決権の所有割合の[ ]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。

4. (株)クリエイトラボは従業員持株会が2.5%の議決権を保有しております。

5. (株)セールスゲイトは従業員持株会が3.3%の議決権を保有しております。

6. (株)クレオマーケティング、(株)クレオソリューションおよび(株)クリエイトラボについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

7. (株)ヒューマン・ネットワークは平成26年4月1日に商号を(株)セールスゲイトに変更しております。

8. (株)筆まめは、平成27年4月20日をもって全株式を譲渡し、グループ会社から外れております。

主要な損益情報等	(株)クレオマーケティング	(1) 売上高	2,481百万円
		(2) 経常利益	21百万円
		(3) 当期純利益	16百万円
		(4) 純資産額	166百万円
		(5) 総資産額	1,306百万円

㈱クレオソリューション	(1) 売上高	3,891百万円
	(2) 経常利益	206百万円
	(3) 当期純利益	141百万円
	(4) 純資産額	389百万円
	(5) 総資産額	1,465百万円
㈱クリエイトラボ	(1) 売上高	2,567百万円
	(2) 経常利益	98百万円
	(3) 当期純利益	49百万円
	(4) 純資産額	741百万円
	(5) 総資産額	1,258百万円

9. 有価証券報告書を提出しております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
クレオマーケティング事業	196
クレオソリューション事業	278(1)
筆まめ事業	62
クレオネットワークス事業	33
クリエイトラボ事業	438
全社(共通)	17(1)
合計	1,024(2)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
17(1)	46.9	16.2年	7,499,156

セグメントの名称	従業員数(人)
全社(共通)	17(1)
合計	17(1)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 平均年間給与は税込支払給与額であり、基準外給与及び賞与を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合はありませんが、労使関係は安定しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得の改善など緩やかな景気回復の兆しが見られますが、海外・国内の景気減速懸念は根強く、景気の先行き見通しは依然として不透明な状況にあります。

当業界におきましても、顧客の情報化投資に対する慎重な姿勢は変わらず、製品・サービスの受注のためには新たな投資を積極的に行い営業力、技術力の向上が必要な状況にあります。

このような状況の中、当社グループは平成27年3月にBtoC事業を展開する筆まめ事業の譲渡を決定し、BtoB事業に対し集中的な投資を行い同事業の成長を促進することを目指しております。

なお、当連結会計年度における、当社グループの状況は、売上は前連結会計年度より微増となりましたが、営業利益、経常利益は増加、当期純利益に関しては大幅に増加となりました。

以上の結果、売上高114億25百万円（前期比0.3%増）、営業利益3億57百万円（前期比37.6%増）、経常利益3億80百万円（前期比38.7%増）、当期純利益は2億13百万円（前期比384.5%増）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

- ・クレオマーケティング事業（主たる事業：基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供）

人事給与、会計を中心としたZeeM製品の販売は順調に進んだものの、前期は大型案件の獲得があったため、売上高は前期と比較して微減となりました。利益に関しては、前期の利益に大きな影響を及ぼした不採算プロジェクトの影響が減少したことから前期より増加しました。

その結果、売上高は24億32百万円（前期比0.7%減）、営業利益24百万円（前期は営業損失37百万円）となりました。

- ・クレオソリューション事業（主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発）

既存顧客への営業強化による受注増、当社主要株主であるアマノ株式会社との新規取引、継続的なプロジェクト管理強化の取り組みにより、前期より売上・利益共に堅調に増加しました。

その結果、売上高は38億67百万円（前期比7.0%増）、営業利益2億12百万円（前期比5.5%増）となりました。

- ・筆まめ事業（主たる事業：はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売）

WindowsXPサポート終了に伴うPC買い替え需要等により、主力製品である毛筆ソフト「筆まめVer.25」の販売が順調に推移し、売上、利益ともに前期を上回りました。

その結果、売上高は12億8百万円（前期比8.0%増）、営業利益68百万円（前期比67.4%増）となりました。

- ・クレオネットワークス事業（主たる事業：ICT基盤サービスプラットフォームの提供とBPMツールの開発・販売）

ビジネス基盤サービス「SmartStage」を中心としたサービス展開は堅調に進んだものの、前期は複数の大型案件の獲得があったため、売上高は前期と比較して減少となりました。利益に関しては、全般的な販売管理費の削減に取り組んだものの、継続的な開発投資に伴うソフトウェア償却負担増による売上原価の増加のため前期を下回りました。

その結果、売上高は5億69百万円（前期比13.3%減）、営業利益3百万円（前期比30.4%減）となりました。

- ・クリエイトラボ事業（主たる事業：ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス）

一部顧客向けサービスにおけるサービスの縮小、単価の下落等により売上は減少となりましたが、継続的な販売管理費削減の取り組みを行ったことにより利益は増加しました。

その結果、売上高は33億47百万円（前期比5.6%減）、営業利益1億34百万円（前期比10.7%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当社グループの資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より2億6百万円収入が少なく、7億72百万円の収入になりました。これは、たな卸資産の増加及び法人税等の支払額の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より3億64百万円支出が少なく、3億22百万円の支出となりました。これは、無形固定資産の取得等による支出の減少によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より22百万円支出が少なく、44百万円の支出となりました。これは自己株式の取得による支出の減少によるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)	前年同期比 (%)
クレオマーケティング事業(百万円)	2,245	94.0
クレオソリューション事業(百万円)	3,833	106.7
筆まめ事業(百万円)	1,474	87.6
クレオネットワークス事業(百万円)	679	90.2
クリエイトラボ事業(百万円)	3,825	95.1
合計(百万円)	12,059	97.0

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比 (%)	受注残高(百万円)	前年同期比 (%)
クレオマーケティング事業	2,254	100.7	640	101.5
クレオソリューション事業	3,679	98.7	698	81.9

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)	前年同期比 (%)
クレオマーケティング事業(百万円)	2,432	0.7
クレオソリューション事業(百万円)	3,867	7.0
筆まめ事業(百万円)	1,208	8.0
クレオネットワークス事業(百万円)	569	13.3
クリエイトラボ事業(百万円)	3,347	5.6
合計(百万円)	11,425	0.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
ヤフー(株)	1,764	15.5	1,784	15.6

3. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

当社グループは、経営環境の変化に柔軟に対応できるよう経営の質を充実させ、収益力の一層の向上を図ってまいります。そのため、次のような課題を認識し、克服に向け継続的な取組をしております。

売上の拡大、営業利益の確保およびコストダウンの推進

大型プロジェクト案件の継続的受注、ストックビジネスの強化、既存顧客との取引拡大、新規顧客の開拓等により、受注・売上の拡大に努めます。また、徹底したコスト管理を継続して推進し、経費削減に努めます。

生産性と品質の向上

ソフトウェア受託を中心にPMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)を軸としたプロジェクト管理を強化し、開発技術の標準化や効率化を推進し、開発の費用・手段の効率化と製品の品質向上に努めます。

技術者の育成と確保

技術教育を充実させ、システム開発技術者の育成と開発技術の習得を進め、より専門性の高い技術者の育成に努めます。

### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 特定の取引先への依存度について

当社グループは、連結売上高のうち富士通株式会社ならびにその系列企業及びヤフー株式会社への依存度が高く、当連結会計年度における売上高に占める割合は、富士通株式会社ならびにその系列企業を含めたグループ全体が25.9%及びヤフー株式会社15.6%となっております。なお、富士通株式会社ならびにその系列企業及びヤフー株式会社と当社グループの間には取引基本契約を締結しており、取引関係については取引開始以来安定したものとなっております。しかし、昨今の急激な景気悪化に伴い、富士通株式会社ならびにその系列企業、またヤフー株式会社において現在外注発注している業務を内製化に切り替えることが予想され、その程度によっては当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) その他

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の防止及び発生した場合の適切な対処に努めて参ります。なお、以下の記載は当社株式への投資に関するリスクをすべて網羅するものではありませんので、この点にご留意ください。

##### 1. 当社グループにおける事業リスク

経済情勢や企業業績などにより、顧客情報化投資の抑制や投資サイクルの長期化があった場合、受注時期の遅延、受注額の減少、場合によっては競争激化による失注など、当社グループの事業、業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社グループにおける事業リスクにつきましては、以下の通りでございます。

株式会社クレオマーケティングの中核製品である「ZeeM」は法人向け人事給与・会計システム製品のため、商談期間として数ヶ月を要し、売上高が会計年度末月に集中する傾向があります。さらに商談の進捗状況によっては、納期の延伸等により売上計上時期が次会計年度以降にずれこむ可能性があります。また、製品品質の管理については徹底したチェックを行っておりますが、予想を超える事態により品質精度の問題が発生した場合には、業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

株式会社クレオソリューションは、原則として請負契約を締結しています。当該契約の受注時に採算性が見込まれるプロジェクトであっても、新技術仕様での開発であるものや開発進行途中で想定外の仕様変更が発生し、作業工数が当初の見積もり以上に増加することなどにより、最終的に案件が不採算化する可能性があります。こうした赤字プロジェクトの発生を抑制するため、一定規模以上の案件に関してプロジェクト監査を実施し、受注時の見積りやリスク要因のレビュー、見積り精度の向上、開発技術方法の整備により対応しております。

## 2. 同業他社・顧客に関するリスク

当社グループの主な事業内容は、ソフトウェアの開発ならびにソフトウェアパッケージ販売であり、関連業務の多角化と開発分野の選別を行い、安定的な高収益と継続的な取引を維持するために、大規模システムの一括請負契約による受注獲得および広範囲な業種分野での販売先の開拓を営業の基本方針としております。しかしながら、当社グループの売上高は、特定顧客、特定業種への依存率が高く、この売上高比率が高いことは、グループの強みでもありますが、将来、予想を超えた経済情勢の変化等により、特定顧客、特定業種における事業環境が変化した場合、経営に影響を与える可能性があります。

また、製品販売での売上高につきましては、国内の同業他社との受注競争が存在します。顧客ニーズを十分に満たせるよう全社的な営業推進体制を強化し高機能で信頼性の高い製品を提供するよう努めておりますが、競争状況が激化し受注競争による販売価格が低下した場合、経営に影響を与える可能性があります。

さらに、ソフトウェアの瑕疵や品質、納期遅延に関する賠償責任、ライセンス等知的所有権侵害による訴訟や営業権の喪失、特許上でのトラブルなど法的リスクと損害が発生する可能性があります。

## 3. 関係会社等に関するリスク

当社グループの子会社については、規模・業態は様々であり、内部管理体制の水準も様々であります。各社とも業容の規模に応じて人員の確保等を強化する方針ですが、これが適時に実現できない場合、当社グループの業績、キャッシュ・フローに影響を与える可能性があります。

## 4. 技術開発に関するリスク

当社グループの事業は、コンピュータ技術、ネットワーク技術等に密接に関連しておりますが、これらの技術分野は技術の進歩が著しいという特徴を有しております。当社では、研究開発活動等によってコンピュータ技術等の進展に対応していく方針であります。想定していないような新技術・新サービスの普及等により事業環境が急激に変化した場合、必ずしも迅速には対応できないおそれがあります。また、事業環境の変化に対応するために研究開発活動等の費用が多額となる可能性があります。このような場合当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 5. 情報セキュリティに関するリスク

当社グループの事業は、業務上、お客様からの個人情報や機密情報をお預かりする場合があります。保管、運送中の紛失、盗難、流出などのリスクが想定されます。そのため、ISMSの取得などを実現しております。これらの施策にもかかわらず、個人情報をはじめとするシステムに関わる機密情報が万一漏洩した場合は、対応、弁済などに多額の費用が発生し、お客様の信頼を失う可能性があります。その結果、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 6. 人材確保に関するリスク

当社グループが主業としているソフトウェア開発については、人的財産を確保するための採用活動が業容の拡大のためには必須となります。当社グループの業績予想は人員計画に基き策定しておりますが、計画どおりに技術者の確保が出来なかった場合、外部委託へのある程度の依存は行うものの、なお不足の場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

### (1) 株式会社クレオネットワークスのメディア事業譲渡に関する契約について

当社の連結子会社である株式会社クレオネットワークスは、平成27年1月9日開催の取締役会で事業の一部であるメディア事業を株式会社アイフィスジャパンへ譲渡する事を決議し、同日付で事業譲渡契約を締結しました。

当該事業譲渡は、平成27年2月1日をもって実施しております。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

### (2) 株式会社筆まめの全株式譲渡に関する契約について

当社は、平成27年3月31日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社筆まめの全株式を、株式会社FPJに譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しました。

当該株式譲渡は、平成27年4月20日をもって実施しております。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおりであります。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、当社は、決算日における資産・負債の報告数値および偶発資産・負債の開示、並びに報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積りおよび判断に対して、継続して評価を行っております。

また、過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる様々な要因に基づき、見積りおよび判断を行い、その結果は、他の方法では判定しにくい資産・負債の簿価および収入・費用の報告数値についての判断基礎としております。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における、当社グループの状況は、売上は前期より微増となりましたが、営業利益、経常利益は増加、当期純利益に関しては大幅に増加となりました。

クレオマーケティング事業については、人事給与、会計を中心としたZeeM製品の販売は順調に進んだものの、前期は大型案件の獲得があったため、売上高は前期と比較して微減となりました。利益に関しては、前期の利益に大きな影響を及ぼした不採算プロジェクトの影響が減少したことから前期より増加しました。

クレオソリューション事業については、既存顧客への営業強化による受注増、当社主要株主であるアマノ株式会社との新規取引、継続的なプロジェクト管理強化の取り組みにより、前期より売上・利益共に堅調に増加しました。

筆まめ事業については、WindowsXPサポート終了に伴うPC買い替え需要等により、主力製品である毛筆ソフト「筆まめVer. 25」の販売が順調に推移し、売上、利益ともに前期を上回りました。

クレオネットワークス事業については、ビジネス基盤サービス「SmartStage」を中心としたサービス展開は堅調に進んだものの、前期は複数の大型案件の獲得があったため、売上高は前期と比較して減少となりました。利益に関しては、全般的な販売管理費の削減に取り組んだものの、継続的な開発投資に伴うソフトウェア償却負担増による売上原価の増加のため前期を下回りました。

クリエイトラボ事業については、一部顧客向けサービスにおけるサービスの縮小、単価の下落等により売上は減少となりましたが、継続的な販売管理費削減の取り組みを行ったことにより利益は増加しました。

以上の結果、売上高114億25百万円（前期比0.3%増）、営業利益3億57百万円（前期比37.6%増）、経常利益3億80百万円（前期比38.7%増）、当期純利益は2億13百万円（前期比384.5%増）となりました。

### (3) 当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、5億15百万円の増加となりました。

これは主として現金及び預金の増加によるものです。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、1億38百万円の減少となりました。

これは主としてソフトウェアの減少によるものであります。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、1億50百万円の増加となりました。

これは主として未払金の増加及び未払消費税等の増加によるものです。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、28百万円の増加となりました。

これは主として繰延税金負債の増加によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、1億97百万円の増加となりました。

これは主として当期純利益の計上によるものです。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より2億6百万円収入が少なく、7億72百万円の収入になりました。これは、たな卸資産の増加及び法人税等の支払額額の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より3億64百万円支出が少なく、3億22百万円の支出となりました。これは、無形固定資産の取得等による支出の減少によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度より22百万円支出が少なく、44百万円の支出となりました。これは自己株式の取得による支出の減少によるものです。

なお、当企業集団のキャッシュ・フロー指標トレンドは下記のとおりであります。

	第38期 平成23年3月期	第39期 平成24年3月期	第40期 平成25年3月期	第41期 平成26年3月期	第42期 平成27年3月期
自己資本比率(%)	67.9	66.0	70.1	67.3	66.5
時価ベースの 自己資本比率(%)	23.9	31.0	48.8	42.5	45.3
キャッシュ・フロー対有 利子負債比率(年)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
インタレスト・カバレッ ジ・レシオ(倍)	117.4	1,140.9	337.6	9,003.0	11,550.6

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

(注2) 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。

(注3) キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

(注4) 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としておりません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、市場販売目的の製品マスター等に伴う製品開発投資、品質・生産性向上及び技術者育成に必要なPC等を購入いたしました。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

(平成27年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数
			建物及び 構築物 (百万円)	工具、器具 及び備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	ソフト ウェア (百万円)	合計 (百万円)	
本社 (東京都港区)	全社(共通)	事務所 および 設備	39	8	0 (120.00)	20	68	17 (1)

(注) 株クレオの建物及び構築物は株クレオマーケティング及び株クレオネットワークスへ賃貸しております。

(2) 国内子会社

(平成27年3月31日現在)

会社名称	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数
				建物及び 構築物 (百万円)	工具、器具 及び備品 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)	合計 (百万円)	
(株)クレオ マーケティング	本社 (東京都港区)	クレオ マーケティング 事業	コンピュータ 周辺機器等	0	2	244	248	119 (-)
	名古屋事業所 (愛知県名古屋市)	クレオ マーケティング 事業	コンピュータ 周辺機器等	3	0	-	3	19 (-)
	関西事業所 (大阪府大阪市)	クレオ マーケティング 事業	コンピュータ 周辺機器等	3	2	0	6	58 (-)
(株)クレオ ソリューション	本社 (東京都港区)	クレオ ソリューション 事業	コンピュータ 周辺機器等	58	22	20	101	270 (1)
(株)筆まめ	本社 (東京都港区)	筆まめ事業	コンピュータ 周辺機器等	10	3	87	100	62 (-)
(株)クレオ ネットワークス	本社 (東京都港区)	クレオ ネットワークス 事業	コンピュータ 周辺機器等	0	2	74	77	33 (-)
(株)クリエイトラボ	本社 (東京都品川区)	クリエイトラボ 事業	コンピュータ 周辺機器等	16	5	2	23	218 (-)
	山梨保養所 (山梨県甲府市)	クリエイトラボ 事業	保養所	12	0	-	12	- (-)
	関西事業所 (大阪府大阪市)	クリエイトラボ 事業	コンピュータ 周辺機器等	4	0	-	5	36 (-)

- (注) 1. 金額には消費税を含めておりません。  
2. 従業員数の( )は、臨時従業員数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループは、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別策定していますが、計画策定にあたっては提出会社を中心に調整を図っております。

- (1) 重要な設備の新設  
該当事項はありません。
- (2) 重要な改修  
該当事項はありません。



## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日の現在発行数(株) (平成27年6月26日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	9,237,319	9,237,319	東京証券取引所 (JASDAQ スタンダード市場)	単元株式数 1,000株
計	9,237,319	9,237,319	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年3月22日 (注)		9,237,319		3,149	787	-

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	8	15	39	6	2	901	971	-
所有株式数(単元)	-	487	284	4,077	222	2	4,094	9,166	71,319
所有株式数の割合(%)	-	5.31	3.10	44.48	2.42	0.02	44.67	100	-

(注) 1. 自己株式581,646株は、「個人その他」に581単元及び「単元未満株式の状況」に646株を含めて記載しております。

2. 「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
アマノ株式会社	神奈川県横浜市港北区大豆戸町275	2,645	28.63
ヤフー株式会社	東京都港区赤坂9丁目7-1	1,100	11.90
クレオ従業員持株会	東京都港区港南4丁目1-8	262	2.84
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	193	2.08
江本 英雄	兵庫県芦屋市	155	1.67
吉岡 裕之	大阪府東大阪市	143	1.54
川畑 種恭	東京都三鷹市	130	1.40
椎名 博	福島県いわき市	126	1.36
MSIP CLIENT SECURITIES 常任代理人 モルガン・スタン レーMUF G証券株式会社	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K.	122	1.32
加賀美 忍	東京都世田谷区	120	1.29
計		4,996	54.09

(注)1.当社は、自己株式581千株(6.29%)を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主から除外しております。

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 581,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,585,000	8,585	-
単元未満株式	普通株式 71,319	-	-
発行済株式総数	9,237,319	-	-
総株主の議決権	-	8,585	-

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社クレオ	港区港南4丁目1-8	581,000	-	581,000	6.29
計	-	581,000	-	581,000	6.29

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	2,063	795,114
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成27年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	581,646	-	581,646	-

### 3【配当政策】

当社は株主の皆様への剰余金処分を経営の重要な政策の一つとして考えております。

配当に関しては長期的な視点に立ち、連結業績に応じた安定的な利益の配分を基本方針としております。

当事業年度の配当金につきましては、上記方針に基づき当期は1株当たり5円の期末配当（中間配当は0円）を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向（連結）は20.3%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製品開発体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の利益剰余金の配当を行うことができ、配当の決定機関は、中間配当と期末配当ともに取締役会となっております。なお、配当につきましては、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる。」「中間配当は毎年9月30日を基準日、期末配当は毎年3月31日を基準日として、配当を行うことができる。」旨を定款で定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年5月13日 取締役会	43	5

今後は同配当水準を継続し、当社の連結業績に応じて段階的な引き上げも視野にいられております。

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	187	280	603	430	432
最低(円)	128	138	192	286	313

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所（JASDAQ市場）におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであり、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
最高(円)	406	412	405	408	418	410
最低(円)	361	385	382	383	384	375

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

5【役員の状況】

男性9名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

平成27年6月26日現在

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		阿南 祐治	昭和30年9月20日生	昭和54年4月 羽沢建設株式会社 入社 平成9年10月 当社 入社 平成12年5月 株式会社クリエイトラボ 取締役 平成18年9月 株式会社クリエイトラボ 常務取締役 平成19年12月 株式会社ヒューマン・ネットワーク(現 株式会社セールスゲイト) 取締役 平成21年4月 株式会社クリエイトラボ 代表取締役社長 平成25年4月 株式会社クリエイトラボ 代表取締役会長 株式会社ヒューマン・ネットワーク(現 株式会社セールスゲイト) 代表取締役会長 株式会社アイティアイ 代表取締役会長 平成25年6月 当社 取締役 平成26年2月 当社 代表取締役副社長 平成26年4月 当社 代表取締役社長(現任) 平成26年5月 株式会社クリエイトラボ 取締役会長(現任) 株式会社セールスゲイト 取締役会長 株式会社アイティアイ 取締役会長	(注)3	1
常務取締役		生駒 進	昭和38年7月15日生	昭和61年4月 アマノ株式会社 入社 平成15年4月 アマノビジネスソリューションズ株式会社 代表取締役社長 平成23年4月 アマノ株式会社 執行役員時間情報事業本部長 平成25年4月 株式会社クレオマーケティング 取締役(現任) 平成25年6月 当社 取締役 平成26年6月 当社 常務取締役(現任)	(注)3	-
取締役		柿崎 淳一	昭和39年12月29日生	昭和62年4月 当社 入社 平成12年4月 当社 ソリューション事業部 第1ソリューション部 部長 平成13年4月 当社 ソリューション事業部 事業部長 平成23年4月 株式会社クレオソリューション 取締役 平成25年4月 株式会社クレオソリューション 代表取締役社長(現任) 平成25年6月 当社 取締役(現任) 平成26年4月 株式会社クレオマーケティング 取締役(現任) 平成27年5月 株式会社クレオネットワークス 取締役(現任)	(注)3	10
取締役 (注)1		上野 亨	昭和29年7月20日生	平成6年5月 株式会社富士銀行(現株式会社みずほ銀行) ニューヨーク支店副支店長 平成14年7月 株式会社みずほ銀行 北沢支店支店長 平成18年12月 アマノ株式会社入社 平成19年4月 同社 執行役員 平成19年4月 同社 経理部長 平成21年4月 同社 管理本部副本部長 平成23年4月 同社 経営企画本部長(現任) 平成23年6月 同社 取締役(現任) 平成25年6月 当社 取締役(現任) 平成26年4月 アマノ株式会社 常務執行役員(現任)	(注)3	-
取締役		大矢 俊樹	昭和44年12月16日生	平成4年4月 監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ) 入社 平成6年3月 公認会計士登録 平成11年10月 ソフトバンク・インベストメント株式会社(現SBIホールディングス株式会社) 入社 平成15年2月 ヤフー株式会社 入社 平成16年1月 同社 社長室 事業戦略室長 平成17年4月 同社 経営企画本部 事業戦略室長 平成17年6月 当社 取締役 平成18年4月 ヤフー株式会社 経営企画本部 平成18年6月 当社 取締役 兼 最高財務責任者 平成21年9月 ヤフー株式会社 R&D統括本部統括本部 企画室長 平成23年4月 当社 代表取締役社長 株式会社クレオマーケティング 取締役会長 平成24年4月 ヤフー株式会社 最高財務責任者(CFO) 執行役員 平成26年6月 当社 取締役(現任) 平成26年6月 ヤフー株式会社 取締役 最高財務責任者常務執行役員 平成27年6月 同社 副社長執行役員 最高財務責任者(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤 監査役		小池 博	昭和25年2月26日生	昭和49年12月 当社 入社 平成5年4月 当社 業務部長 平成10年4月 当社 経理部長 平成12年4月 当社 事業推進部長 平成15年4月 当社 事業統括部長 平成17年4月 同社 執行役員 管理本部長 平成18年4月 当社 業務監査室長 平成19年6月 当社 常勤監査役(現任)	(注)4	6
常勤 監査役		土屋 淳一	昭和28年6月10日生	昭和51年4月 当社 入社 平成元年4月 当社 パソコン事業本部 テクニカルサービス部長 平成2年10月 当社 総務部長 平成11年4月 当社 技術研究室長 平成16年9月 当社 執行役員経営企画室長 平成16年12月 当社 常務執行役員経営企画室長 平成17年6月 当社 取締役 兼 常務執行役員経営企画室長 平成18年6月 当社 代表取締役社長 兼 最高経営責任者 平成23年4月 当社 代表取締役会長 平成25年6月 当社 執行役員 経営管理室長 平成27年6月 当社 常勤監査役(現任)	(注)5	32
監査役 (注)2		宮澤 求	昭和42年3月3日生	平成5年10月 監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ) 入社 平成9年2月 デロイトトーマツコンサルティング株式会社(現 アビームコンサルティング株式会社) 入社 平成9年3月 公認会計士登録 平成12年5月 ソフトバンク・インベストメント株式会社(現SBIホールディングス株式会社) 入社 平成14年2月 連結経営コンサルティング有限会社 取締役(現任) 平成19年1月 連結コム株式会社 代表取締役(現任) 平成24年6月 当社 監査役(現任)	(注)4	11
監査役 (注)2		渡辺 伸行	昭和47年8月7日生	平成11年4月 弁護士登録 TMI総合法律事務所 入所 平成19年1月 TMI総合法律事務所 パートナー弁護士(現任) 平成22年4月 特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International 監事(現任) 平成24年6月 当社 監査役(現任)	(注)4	-
計						60

- (注) 1. 取締役上野亨は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外取締役(会社法第2条第15号)であります。
2. 監査役宮澤求、監査役渡辺伸行は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外監査役(会社法第2条第16号)であります。
3. 平成27年6月の定時株主総会から1年間
4. 平成24年6月の定時株主総会から4年間
5. 平成27年6月の定時株主総会から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

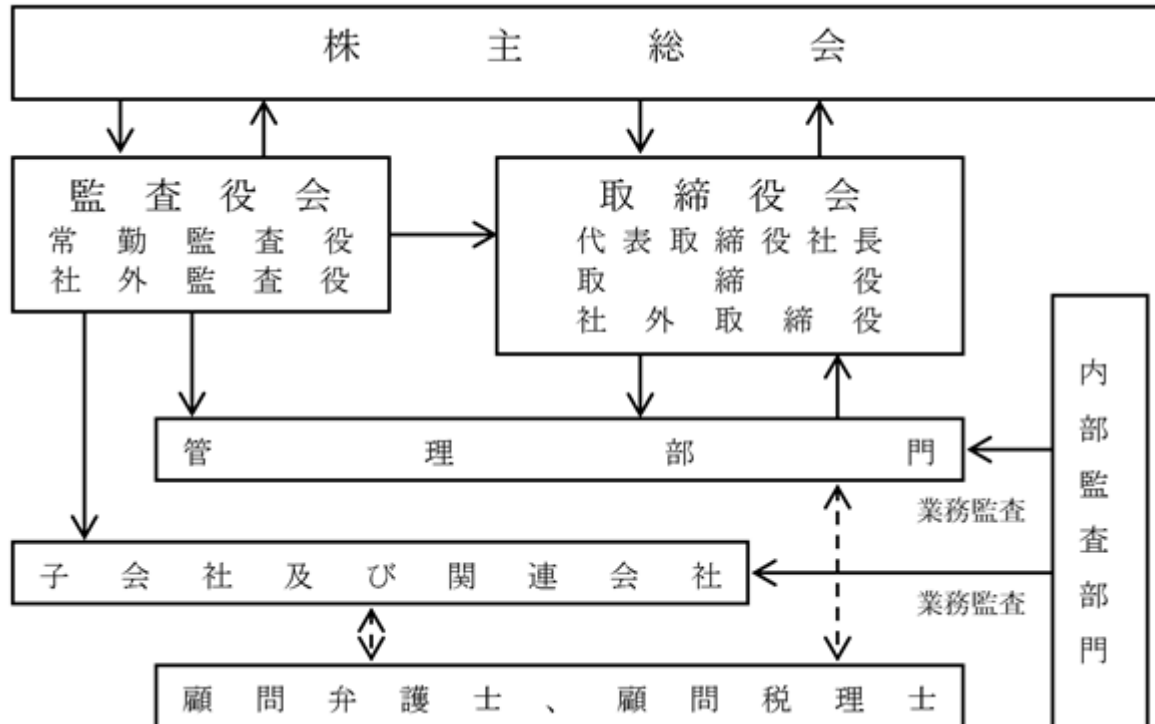
#### ・企業統治の体制の概要

当社グループは、優秀な技術と最良の製品を提供し、会社の繁栄とともに顧客・株主・従業員などのステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、あらゆる企業活動において法令を遵守し、コンプライアンス・リスク管理体制を含めた透明性の高い内部統制システム整備・確立してまいります。

これを通じてコーポレートガバナンスの充実を図り、企業価値のさらなる向上に努めています。

なお、コーポレートガバナンスの基本構造および経営執行体制は、下記の体制を整えております。

コーポレート・ガバナンスの基本構造と経営執行体制



#### ・企業統治の体制を採用する理由

当社グループは、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）の上場会社として社会的使命と責任を果たし、継続的な成長・発展を目指すため、コーポレートガバナンスの充実が重要な経営課題であるとの認識に立ち、当社グループに対するコンプライアンス経営行動基準の指導や内部監査体制などによる法令違反行為の未然防止、複数の社外取締役、社外監査役の選任などによる取締役会及び監査役会の機能強化、経営の透明性・公正性を向上させ、法令に準じた業務執行体制の構築、リスク管理体制の確立等のため、企業統治の体制を採用しております。

・内部統制システムの整備の状況

内部統制システムの整備につきまして当社では、取締役会による業務執行状況の監督、監査役および監査役会による監査を軸に経営監視体制を構築しております。また、内部監査部門として内部統制室を設置し、業務活動が規程に則り適正・適法・効率的に行われているかを定期的、継続的に監査または審査しております。加えて、内部統制を推進する内部統制プロジェクトを設置し、当社グループの内部統制およびコンプライアンスの取組みを横断的に統括させ、社内管理体制強化のための具体策に取り組んでおります。また、違法・不法・不当行為に関しては、発生の都度委員会を開催し賞罰に対し厳正に処分し、さらに反社会的勢力との関係を遮断するために、警察、弁護士等の外部部門との連携強化を図るとともに、それらの不当要求につながる手口とその対策を当社グループの取締役および従業員に周知、徹底しております。

・リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制につきましては当社グループでは、経営の透明性の向上とコンプライアンス厳守の経営を徹底することを目標とし、日常的に法令等の厳守やコンプライアンス経営の意識徹底、強化の構築を図っております。プロジェクトの受注から出荷までの節目点検、契約審査を実施するための機能、情報セキュリティおよびコンプライアンスの徹底強化を推進するため機能を有しております。また、事業活動全般に生じる様々なリスクのうち、経営戦略上のリスクについては、必要に応じて適時審議を行っており、PMO（プロジェクト・マネジメント・オフィス）では、過少見積防止、プロジェクトの不採算防止に努めております。他には「プライバシーマーク」の認証および情報セキュリティに関する認証である「ISMS」を取得し、情報セキュリティ関連の整備と運用を推進しております。

・責任免除の内容の概要

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。これは、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、責任を合理的範囲にとどめることを目的とするものであります。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、業務の適正な運用および業務の効率化のため、プロジェクト監査を中心に実施しております。また、監査法人と連携して会社業務の適切な運営、効率化に努めております。

監査役監査については、平成27年6月26日現在、監査役会は4名で構成されており、常勤監査役2名、非常勤監査役2名で、各監査役は監査役会が策定した監査計画に従って監査しております。業務活動の全般にわたり、方針、計画、手続の妥当性、法令遵守状況等につき、取締役会、その他重要会議への出席、重要な書類の閲覧、子会社の調査等を通じた監査を行っております。また、監査役会は会計監査人から監査の方法と結果について報告を受け、これらの監査結果を定期的に常勤取締役と取締役会へ報告をしています。

社外取締役及び社外監査役

・取締役の員数および取締役の選解任の決議要件

当社の取締役は、7名以内とする旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

・会社と会社の社外取締役および社外監査役の人的関係、資本的关系又は取引関係その他

氏名（役職）	人的関係	資本的关系又は取引関係等
上野 亨（社外取締役）	特にありません。	特にありません。
宮澤 求（社外監査役）	特にありません。	特にありません。
渡辺 伸行（社外監査役）	特にありません。	特にありません。



- ・社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割  
社外取締役は、定期的に行われる取締役会に出席し、IT業界およびコンプライアンスの面等から適切な意見、公正な意見の表明を行っております。また、社外監査役は、定期的に行われる取締役会および監査役会に出席し、必要に応じリーガル面ならびに税務もしくは財務的な見地から公正な意見の表明を行い取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言、提言をいただいております。さらに、監査の方法その他の監査役職務の執行に関する事項についても意見の表明を行うとともに、経営トップとの定期的な意見交換会を行っております。

・責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役は金1百万円または法令が定める額のいずれか高い額、社外監査役は金1百万円または法令が定める額のいずれか高い額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

・社外取締役又は社外監査役を選任する為の独立性に関する基準又は方針

当社は社外取締役又は社外監査役を選任する為の独立性に関する基準又は方針について明確に定めたものはありませんが、下記の内容を中心に、社外取締役又は社外監査役を選任する為の独立性（当社との利害関係や一般株主と利益相反の生じる恐れなど）を確認し、判断しております。

- ・当社以外の法人その他の団体における兼務もしくは兼職の確認。
- ・過去5年間に他の株式会社の取締役、執行役または監査役に就任した場合において、その在任中に当該他の株式会社において法令または定款に違反する事実、その他不正な業務の執行が行われた事実の確認。
- ・当社または当社の関係会社から、役員報酬等以外で多額の金銭その他の財産を受ける予定があるか、または過去2年間に受けていたかの確認。
- ・配偶者または三親等以内の親族その他これに準ずる者で、当社または当社の関係会社の役員・部長（もしくはこれらに準ずる地位。ただし、社外取締役等非業務執行取締役、監査役、会計参与は除く。）として在籍していたかの確認。

役員報酬等

・役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	25	25	-	-	-	2
監査役 (社外監査役を除く。)	8	8	-	-	-	1
社外役員	3	3	-	-	-	2

・役員報酬の決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

・投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

7銘柄 117百万円

・保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ビジネスブレイン太田昭和	100,000	75	クレオマーケティング事業との協業

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ビジネスブレイン太田昭和	100,000	112	クレオマーケティング事業との協業

- ・保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

・自己株式の取得

当社は、会社法第459条第1項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の実施を可能とすることを目的とするものであります。

・中間配当および期末配当

当社は、会社法第459条第1項の規定により、中間配当は毎年9月30日、期末配当は毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録されている株主または登録株式質権者に対して、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款で定めております。これは、株主への機動的な利益還元の実施を可能とすることを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めています。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和し、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

会計監査の状況

当社は監査法人ナカチと会社法及び金融商品取引法に基づく監査契約を締結しており、平成27年3月期の連結財務諸表および平成27年3月期の財務諸表について監査を受けております。

平成27年3月期における会計監査の体制は以下のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名、継続関与年数および所属する監査法人

公認会計士の氏名等		継続年数	所属する監査法人
代表社員 業務執行社員	吉永 康樹	3年	監査法人ナカチ
業務執行社員	高村 俊行	1年	

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名であります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	23	-	23	-
連結子会社	-	-	-	1
計	23	-	23	1

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社子会社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、監査法人ナカチに対して、財務デューデリジェンスに係る業務についての対価1百万円を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

監査報酬については前期の実績を鑑み、監査法人より提出された見積をもとに検討し、監査役会同意後、監査契約を締結しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人ナカチにより監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構等が行うセミナーに参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,148	3,553
受取手形及び売掛金	2,041	2,149
商品及び製品	21	24
仕掛品	174	204
その他	216	186
流動資産合計	5,603	6,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	215	237
減価償却累計額及び減損損失累計額	88	87
建物及び構築物(純額)	126	150
工具、器具及び備品	163	158
減価償却累計額及び減損損失累計額	118	108
工具、器具及び備品(純額)	45	49
リース資産	3	3
減価償却累計額	0	1
リース資産(純額)	2	2
土地	0	0
有形固定資産合計	174	202
無形固定資産		
のれん	2	-
特許権	-	2
ソフトウェア	598	378
ソフトウェア仮勘定	102	103
その他	3	3
無形固定資産合計	706	488
投資その他の資産		
投資有価証券	82	119
その他	216	231
貸倒引当金	-	0
投資その他の資産合計	298	350
固定資産合計	1,179	1,041
資産合計	6,782	7,159

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	472	433
未払金	461	566
未払法人税等	91	43
賞与引当金	429	461
返品調整引当金	89	79
資産除去債務	9	-
その他	534	653
流動負債合計	2,087	2,237
固定負債		
未払役員退職慰労金	28	26
資産除去債務	46	53
その他	19	42
固定負債合計	93	122
負債合計	2,180	2,360
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	743	743
利益剰余金	843	1,013
自己株式	178	178
株主資本合計	4,558	4,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	32
その他の包括利益累計額合計	7	32
少数株主持分	36	39
純資産合計	4,602	4,799
負債純資産合計	6,782	7,159

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	11,387	11,425
売上原価	8,823	8,792
売上総利益	2,563	2,632
販売費及び一般管理費		
販売促進費	106	83
広告宣伝費	141	154
給料手当及び賞与	737	771
退職給付費用	25	28
賞与引当金繰入額	67	90
役員報酬	275	240
その他	949	906
販売費及び一般管理費合計	2,303	2,275
営業利益	259	357
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	2
受取保険料	1	2
助成金収入	10	-
投資事業組合運用益	-	12
差入保証金償却戻入益	-	4
その他	2	3
営業外収益合計	15	25
営業外費用		
支払利息	-	0
事務取扱手数料	0	-
為替差損	-	1
リース解約損	-	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	2
経常利益	274	380
特別利益		
固定資産売却益	20	-
事業譲渡益	24	86
その他	1	-
特別利益合計	26	86
特別損失		
固定資産除却損	30	30
和解金	55	10
ソフトウェア評価損	49	145
減損損失	421	-
その他	1	1
特別損失合計	127	157
税金等調整前当期純利益	173	310

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
法人税、住民税及び事業税	127	90
法人税等調整額	4	3
法人税等合計	123	93
少数株主損益調整前当期純利益	50	217
少数株主利益	5	3
当期純利益	44	213

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	50	217
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	25
その他の包括利益合計	1, 2 7	1, 2 25
包括利益	57	242
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	51	238
少数株主に係る包括利益	5	3



【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,149	743	843	154	4,581
当期変動額					
剰余金の配当			43		43
当期純利益			44		44
自己株式の取得				23	23
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	0	23	23
当期末残高	3,149	743	843	178	4,558

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	0	0	30	4,612
当期変動額				
剰余金の配当				43
当期純利益				44
自己株式の取得				23
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7	7	5	12
当期変動額合計	7	7	5	10
当期末残高	7	7	36	4,602

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,149	743	843	178	4,558
当期変動額					
剰余金の配当			43		43
当期純利益			213		213
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	170	0	169
当期末残高	3,149	743	1,013	178	4,728

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7	7	36	4,602
当期変動額				
剰余金の配当				43
当期純利益				213
自己株式の取得				0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25	25	3	28
当期変動額合計	25	25	3	197
当期末残高	32	32	39	4,799

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	173	310
減価償却費	501	478
のれん償却額	2	2
減損損失	21	-
貸倒引当金の増減額（は減少）	-	0
賞与引当金の増減額（は減少）	87	31
返品調整引当金の増減額（は減少）	28	10
受取利息及び受取配当金	1	2
支払利息	0	0
有形固定資産除却損	0	0
事業譲渡益	-	86
投資有価証券評価損益（は益）	1	-
有形固定資産売却損益（は益）	0	0
ソフトウェア評価損	49	145
和解金	55	10
売上債権の増減額（は増加）	48	107
たな卸資産の増減額（は増加）	57	33
仕入債務の増減額（は減少）	23	38
未払金の増減額（は減少）	26	69
未払消費税等の増減額（は減少）	10	156
破産更生債権等の増減額（は増加）	-	0
その他	108	21
小計	1,045	905
利息及び配当金の受取額	1	2
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	67	136
営業活動によるキャッシュ・フロー	978	772
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	48	58
無形固定資産の取得による支出	561	346
有形固定資産の売却による収入	0	-
投資有価証券の取得による支出	64	-
差入保証金の差入による支出	11	77
差入保証金の回収による収入	7	62
事業譲渡による収入	-	110
その他	8	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	686	322
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	43	42
自己株式の取得による支出	23	0
少数株主への配当金の支払額	0	0
リース債務の返済による支出	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	67	44
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	224	405
現金及び現金同等物の期首残高	2,923	3,148
現金及び現金同等物の期末残高	1,3,148	1,3,553

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社 8社

株式会社クレオマーケティング

株式会社クレオソリューション

株式会社クレオサンライズ

株式会社筆まめ

株式会社クレオネットワークス

株式会社クリエイトラボ

株式会社セールスゲイト

株式会社アイティアイ

上記のうち、株式会社ヒューマン・ネットワークは平成26年4月1日に商号を株式会社セールスゲイトに変更しております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当なし

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価をもって貸借対照表価額とし、取得原価との評価差額は全部純資産直入法により処理しております。(売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ 棚卸資産

商品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

製品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)を使用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3~60年

工具、器具及び備品 3~20年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア

ソフトウェアパッケージ開発原価

見積販売数量を基準として販売数量に応じた割合に基づく償却額と、販売可能期間(3年)に基づく償却額のいずれか多い金額をもって償却しております。

自社利用ソフトウェア

自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、支給見込額を計上しております。

ハ 返品調整引当金

連結会計年度末日後の返品による損失に備え、過去の返品実績を勘案し返品損失見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までに進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積は原価比例法）

ロ その他の工事

工事完成基準

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、3年間の定額法により償却を行っております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価格変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

イ 消費税等の会計処理の方法

税抜方式によっております。

ロ 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションは、平成27年1月に一部の事業所の移転を実施いたしました。これにより、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮しております。

また、当該物件の不動産賃借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、支出発生までの見込期間を短縮しております。

この変更による、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

なお、セグメント情報に与える影響は「セグメント情報等」に記載しております。

( 連結貸借対照表関係 )

- 1 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
当座貸越極度額の総額	500百万円	500百万円
借入実行残高	- 百万円	- 百万円
差引	500百万円	500百万円

( 連結損益計算書関係 )

- 1 返品調整引当金繰入額を控除させております。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
	89百万円	79百万円

- 2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
建物	0百万円	- 百万円

- 3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
建物	- 百万円	建物 0百万円
工具、器具及び備品	0	工具、器具及び備品 0
計	0	計 0

- 4 減損損失

前連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類	金額(百万円)
遊休資産	愛知県名古屋市	未経過リース料	21

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、子会社を基本単位としてグルーピングしております。ただし、遊休資産については個々の資産ごとにグルーピングしております。

その結果、前連結会計年度において将来における具体的な使用計画がないリース資産の未経過リース料を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は使用価値を使用しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないことにより、ゼロと評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	11百万円	37百万円
組替調整額	-	-
計	11	37
税効果調整前合計	11	37
税効果額	3	12
その他の包括利益合計	7	25

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	11百万円	37百万円
税効果額	3	12
税効果調整後	7	25
その他の包括利益合計		
税効果調整前	11	37
税効果額	3	12
税効果調整後	7	25

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	9,237	-	-	9,237
合計	9,237	-	-	9,237
自己株式				
普通株式(注)	508	71	-	579
合計	508	71	-	579

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加71千株は、東京証券取引所における信託方式による市場買付と単元未満株式の買取りによるものです。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月19日 定時株主総会	普通株式	43	利益剰余金	5	平成25年3月31日	平成25年6月20日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	43	利益剰余金	5	平成26年3月31日	平成26年6月18日

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	9,237	-	-	9,237
合計	9,237	-	-	9,237
自己株式				
普通株式(注)	579	2	-	581
合計	579	2	-	581

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2千株は、単元未満株式の買取りによるものです。



2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	43	利益剰余金	5	平成26年3月31日	平成26年6月18日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年5月13日 取締役会	普通株式	43	利益剰余金	5	平成27年3月31日	平成27年6月17日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	3,148百万円	3,553百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	3,148	3,553

2. 重要な非資金取引の内容

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
当連結会計年度に新たに計上した重要な資産 除去債務の額	4百万円	6百万円

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業を行うために必要な資金を主に銀行借入により調達し、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。

投資にあたっては、対象の流動性、信用性を勘案し、企業本来の目的を逸脱しない範囲に限定しております。また信用取引、債権先物取引及び商品先物取引等を行わない方針です。

## (2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、その償還日は決算日後1年以内であります。

## (3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

受取手形及び売掛金（営業債権）について、販売管理要領に基づき、取引開始時における与信調査、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の販売管理要領に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社の各連結子会社からの報告に基づき経営管理室が適宜グループ全体の手許資金の状況把握をし、流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

## (4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成26年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,148	3,148	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,041	2,041	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	75	75	-
資産計	5,265	5,265	-
(1) 買掛金	472	472	-
(2) 未払金	461	461	-
(3) 未払法人税等	91	91	-
負債計	1,025	1,025	-

当連結会計年度（平成27年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,553	3,553	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,149	2,149	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	112	112	-
資産計	5,815	5,815	-
(1) 買掛金	433	433	-
(2) 未払金	566	566	-
(3) 未払法人税等	43	43	-
負債計	1,043	1,043	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

前連結会計年度（平成26年3月31日）

資 産

(1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負 債

(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

当連結会計年度（平成27年3月31日）

資 産

(1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負 債

(1) 買掛金 (2) 未払金 (3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
非上場株式	6	6

(注) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金及び預金	3,148	-	-	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,041	-	-	-
合計	5,190	-	-	-

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金及び預金	3,553	-	-	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,149	-	-	-
合計	5,702	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	種 類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	75	64	11
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	75	64	11
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合 計		75	64	11

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 6百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	種 類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	112	64	48
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	112	64	48
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合 計		112	64	48

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 6百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、投資有価証券について1百万円（その他有価証券の株式1百万円）減損処理を行っております。

また、当連結会計年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（退職給付関係）

前連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定拠出制度を設けております。

2. 当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、162百万円であります。

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定拠出制度を設けております。

2. 当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、167百万円であります。

（ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
<b>繰延税金資産(流動)</b>		
棚卸資産評価減	16百万円	1百万円
未払事業税	16	8
未払事業所税	4	4
未払社会保険料	23	22
賞与引当金	159	158
返品調整引当金	32	28
和解金	19	-
未払家賃	1	7
その他	13	13
小計	286	244
評価性引当額	268	228
合計	18	15
<b>繰延税金負債</b>		
仕掛品の原価算入の交際費否認	0	0
合計	0	0
<b>繰延税金資産純額</b>		
	18	15
<b>繰延税金資産(固定)</b>		
ソフトウェア評価減	80	99
株式評価損	6	6
繰越欠損金	577	440
資産除去債務	20	18
その他	26	22
小計	711	587
評価性引当額	711	587
合計	-	-
<b>繰延税金負債</b>		
有形固定資産	11	11
その他有価証券評価差額金	3	16
合計	15	28
<b>繰延税金負債純額</b>		
	15	28

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	20.2	6.1
受取配当金益金不算入	22.3	6.0
受取配当金連結消去	22.1	5.9
評価性引当額	12.7	52.8
連結納税帰属受払額	54.9	29.6
税率変更による影響額	14.4	23.3
連結欠損金	11.7	26.9
欠損金期限切れ	79.1	73.1
その他	1.1	1.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	71.1	30.1

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.3%になります。

この税率変更による、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)への影響は軽微であります。

(企業結合等関係)

当社の連結子会社である株式会社クレオネットワークスは、平成27年1月9日開催の取締役会で事業の一部であるメディア事業を株式会社アイフィスジャパンへ譲渡する事を決議し、平成27年2月1日付で事業譲渡をいたしました。

その概要は、次のとおりであります。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先の名称

株式会社アイフィスジャパン(東京証券取引所 市場第二部 上場コード:7833)

(2) 分離した事業の内容

当社の完全子会社であるクレオネットワークスが開発・運営する「W2Pクラウド」  
「楽だねonline」を中心としたメディアプラットフォーム提供に関する部門。

(3) 事業分離を行った主な理由

メディア事業の更なる拡大には、新たなる追加投資が必要であること、メディア事業は当社グループの他事業とのシナジー効果が弱い事などを勘案した結果、メディア事業に対しての投資意欲と事業拡大に向けた方策が一致した、株式会社アイフィスジャパンに事業を譲渡する事が、当社グループならびにメディア事業のお客様の企業価値拡大につながると判断いたしました。

(4) 事業分離日

平成27年2月1日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする事業譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

86百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 1百万円  
固定資産 13百万円  
資産合計 15百万円  
流動負債 1百万円  
負債合計 1百万円

(3) 会計処理



移転した事業に係る資産及び負債と譲渡価額との差額を特別利益の「事業譲渡益」に計上しております。

3. 分離した事業が含まれていたセグメントの名称

クレオネットワークス事業

4. 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている譲渡した事業に係る損益の概算額

売上高	89百万円
営業利益	13百万円

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

本社及び事業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

前連結会計年度末(平成26年3月31日)

使用見込期間を20~41年と見積り、割引率は2.1~2.2%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。当連結会計年度において、一部の連結子会社オフィスの不動産賃貸借契約を解約するため、オフィスの原状回復を行っております。

当連結会計年度末(平成27年3月31日)

使用見込期間を20~49年と見積り、割引率は1.7~2.2%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。当連結会計年度において、一部の連結子会社オフィスの不動産賃貸借契約を解約するため、オフィスの原状回復を行っております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
期首残高	53百万円	54百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	4	6
時の経過による調整額	4	1
資産除去債務の履行による減少額	8	12
見積の変更による増減額(は減少)	-	3
期末残高	54	53

ニ 資産除去債務の金額の見積の変更

当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションは、平成27年1月に一部の事業所の移転を実施いたしました。これにより、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮しております。

また、当該物件の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、支出発生までの見込期間を短縮しております。

この変更により、3百万円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社は、製品・サービス別に下記の形に区分し、各事業会社単位に取り扱う製品・サービスの包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

セグメント名称 (セグメントに該当する子会社)	主要な事業の内容
クレオマーケティング事業 (株式会社クレオマーケティング)	ZeeM/CBMS製品等の基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供
クレオソリューション事業 (株式会社クレオソリューション 株式会社クレオサンライズ)	システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発
筆まめ事業 (株式会社筆まめ)	はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売
クレオネットワークス事業 (株式会社クレオネットワークス)	ICT基盤サービスプラットフォームの提供とBPMツールの開発・販売
クリエイトラボ事業 (株式会社クリエイトラボ 株式会社セールスゲイト 株式会社アイティアイ)	ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス

(注1) 株式会社筆まめは、平成27年4月20日をもって全株式を譲渡し、グループ会社から外れております。

(注2) 株式会社ヒューマン・ネットワークは平成26年4月1日に商号を株式会社セールスゲイトに変更しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は営業利益(のれん償却前)ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位: 百万円)

	クレオ マーケ ティング 事業	クレオ ソリュー ション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネット ワークス 事業	クレイ トラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	2,450	3,615	1,119	656	3,544	11,387
セグメント間の内部売上高又は振替高	169	12	0	140	517	839
計	2,619	3,628	1,119	796	4,061	12,226
セグメント利益又は損失( )	37	201	40	5	121	332
セグメント資産	1,426	1,443	619	471	1,475	5,436
セグメント負債	1,243	1,171	405	337	667	3,825
その他の項目						
減価償却費	226	31	156	53	27	494
ソフトウェア評価損	48	1	-	-	-	49
減損損失	21	-	-	-	-	21
のれんの償却額	-	-	-	-	2	2
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	206	32	178	156	46	620

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	クレオ マーケ ティング 事業	クレオ ソリュー ション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネット ワークス 事業	クリエイ ラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	2,432	3,867	1,208	569	3,347	11,425
セグメント間の内部売上高又は振替高	49	25	0	159	518	753
計	2,481	3,892	1,209	728	3,866	12,178
セグメント利益	24	212	68	3	134	444
セグメント資産	1,306	1,469	751	359	1,554	5,441
セグメント負債	1,140	1,079	505	257	681	3,664
その他の項目						
減価償却費	168	35	183	72	12	472
ソフトウェア評価損	60	-	-	85	-	145
のれんの償却額	-	-	-	-	2	2
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	126	65	175	47	2	417

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）  
（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,226	12,178
セグメント間取引消去	839	753
連結財務諸表の売上高	11,387	11,425

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	332	444
セグメント間取引消去	97	39
全社費用および利益（注）	25	46
連結財務諸表の営業利益	259	357

（注）全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	5,436	5,441
セグメント間取引消去	2,902	2,682
全社資産（注）	4,248	4,400
連結財務諸表の資産合計	6,782	7,159

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金であります。

(単位：百万円)

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	3,825	3,664
セグメント間取引消去	1,691	1,474
全社負債(注)	46	169
連結財務諸表の負債合計	2,180	2,360

(注) 全社負債は、主に報告セグメントに帰属しない未払金であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	494	472	7	6	501	478
ソフトウェア評価損	49	145	-	-	49	145
減損損失	21	-	-	-	21	-
のれんの償却額	2	2	-	-	2	2
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	620	417	-	33	620	450

#### 5. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計上の見積りの変更)

当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションは、平成27年1月に一部の事業所の移転を実施いたしました。これにより、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮しております。

また、当該物件の不動産賃借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、支出発生までの見込期間を短縮しております。

この変更による、クレオソリューション事業の当連結会計年度のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

#### 【関連情報】

前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ヤフー株式会社	1,764	主にクレオソリューション事業

当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ヤフー株式会社	1,784	主にクレオソリューション事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	全社・消去	合計
減損損失	21	-	-	-	-	-	21

当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	2	-	2
当期末残高	-	-	-	-	2	-	2

当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	2	-	2
当期末残高	-	-	-	-	-	-	-

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
主要株主	ヤフー(株)	東京都港区	8,271	インターネット上の広告事業、ブロードバンド関連事業、オークション事業等	(被所有)直接12.7	システム開発業務の受託等	システム開発業務の受託	1,744	売掛金	247
							製品の販売	20	売掛金	1
							筆まめ事業のロイヤリティ	10	買掛金	0

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社グループの受託開発価格その他の取引条件については、当社と関係を有しない他の当事者と同様の条件によっております。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
主要株主	ヤフー(株)	東京都港区	8,281	インターネット上の広告事業、ブロードバンド関連事業、オークション事業等	(被所有)直接12.8	システム開発業務の受託等	システム開発業務の受託	1,773	売掛金	136
							製品の販売	11	売掛金	1

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社グループの受託開発価格その他の取引条件については、当社と関係を有しない他の当事者と同様の条件によっております。

( 1 株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
1 株当たり純資産額	527.37円	549.99円
1 株当たり当期純利益金額	5.06円	24.66円

- (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
1 株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額 (百万円)	44	213
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額 (百万円)	44	213
普通株式の期中平均株式数 (千株)	8,699	8,656

( 重要な後発事象 )

子会社株式の譲渡

当社は、平成27年 3月31日開催の取締役会において、当社の100%連結子会社である株式会社筆まめの全株式を、株式会社 F P J に譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しました。

(1) 重要な子会社等の株式の売却の旨及び理由

当社では当社グループの更なる成長のために、経営資源の選択と集中に対する検討を慎重に重ねてまいりました。検討の結果、当社グループは、BtoBビジネスへの事業に経営の舵をきることが決定いたしました。

この決定を受け、BtoCビジネスを主とする株式会社筆まめの株式売却先を検討してありましたところ、投資ファンドの運営などを主な事業とするACA Investments Pte. Ltd. が交渉先となり、最終的には、ACA Investments Pte. Ltd. のパートナーが設立した、S P C (特別目的会社) である株式会社 F P J に株式会社筆まめの全株式を譲渡することを決定いたしました。

(2) 売却する相手会社の名称

株式会社 F P J

(3) 売却の時期

平成27年 4月20日

(4) 当該子会社等の名称、事業内容及び会社との取引内容

名称 株式会社筆まめ

事業内容 はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売

取引内容 当社と当該子会社との間には、当社から当該子会社へのグループ経営における経営指導料を徴収する関係があり、当該子会社から当社への製品の販売及びサービス等の取引関係があります。また、当社と当該子会社との間に資金の貸付・借入の取引関係があります。

(5) 売却する株式の数、売却価額、売却損益及び売却後の持分比率

売却前の所有株式数 2,000株 (議決権の数: 2,000個) (持分比率: 100%)

売却株式数 2,000株

売却後の所有株式数 0株 (議決権の数: 0個) (持分比率: 0%)

売却価額 450百万円

売却損益 204百万円 (平成28年 3月期第 1 四半期連結会計期間に計上予定)

(6) セグメント情報の開示において、当該子会社が含まれていた区分の名称

筆まめ事業

(7) 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高 1,209百万円

営業利益 68百万円



【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	2,376	5,425	8,146	11,425
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額( )(百万円)	126	85	37	310
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	141	32	35	213
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	16.29	3.73	4.12	24.66

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	16.29	20.02	7.85	28.78

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,297	1,629
売掛金	29	22
前払費用	1	5
短期貸付金	2,135	2,123
その他	215	214
流動資産合計	2,822	3,002
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	37	39
工具、器具及び備品	5	8
土地	0	0
有形固定資産合計	43	48
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	0	0
ソフトウェア	-	20
無形固定資産合計	0	20
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	80	117
関係会社株式	1,164	1,164
関係会社長期貸付金	291	-
その他	46	46
投資その他の資産合計	1,383	1,329
<b>固定資産合計</b>	1,426	1,397
<b>資産合計</b>	4,248	4,400

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	0	-
未払金	2 11	2 107
未払法人税等	11	7
賞与引当金	0	10
その他	2	13
流動負債合計	26	138
固定負債		
繰延税金負債	7	19
資産除去債務	12	12
その他	-	0
固定負債合計	19	31
負債合計	46	169
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金		
その他資本剰余金	743	743
資本剰余金合計	743	743
利益剰余金		
利益準備金	8	13
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	471	470
利益剰余金合計	480	484
自己株式	178	178
株主資本合計	4,195	4,198
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7	32
評価・換算差額等合計	7	32
純資産合計	4,202	4,230
負債純資産合計	4,248	4,400

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
<b>売上高</b>		
関係会社受取配当金	1 100	1 43
経営指導料	1 90	1 120
業務受託料	-	1 115
資産利用料	1 16	1 14
売上高合計	207	294
<b>売上総利益</b>	207	294
<b>販売費及び一般管理費</b>		
役員報酬	31	37
給料及び手当	30	84
賞与引当金繰入額	0	9
減価償却費	9	8
業務委託費	1 52	1 68
顧問料	25	38
その他	31	94
販売費及び一般管理費合計	182	341
<b>営業利益又は営業損失( )</b>	25	46
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1 21	1 21
受取配当金	0	2
投資事業組合運用益	-	12
その他	0	0
営業外収益合計	23	37
<b>営業外費用</b>		
事務取扱手数料	0	-
営業外費用合計	0	-
<b>経常利益又は経常損失( )</b>	48	9
<b>特別損失</b>		
投資有価証券評価損	1	-
特別損失合計	1	-
<b>税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )</b>	46	9
法人税、住民税及び事業税	119	56
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	-	0
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	119	56
<b>当期純利益</b>	165	47

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	3,149	743	743	4	353	357	154	4,096
当期変動額								
当期純利益					165	165		165
自己株式の取得							23	23
剰余金の配当					43	43		43
利益準備金の積立				4	4	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	4	117	122	23	98
当期末残高	3,149	743	743	8	471	480	178	4,195

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	-	-	4,096
当期変動額			
当期純利益			165
自己株式の取得			23
剰余金の配当			43
利益準備金の積立			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7	7	7
当期変動額合計	7	7	105
当期末残高	7	7	4,202

当事業年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	3,149	743	743	8	471	480	178	4,195
当期変動額								
当期純利益					47	47		47
自己株式の取得							0	0
剰余金の配当					43	43		43
利益準備金の積立				4	4	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	4	0	3	0	3
当期末残高	3,149	743	743	13	470	484	178	4,198

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	7	7	4,202
当期変動額			
当期純利益			47
自己株式の取得			0
剰余金の配当			43
利益準備金の積立			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	25	25	25
当期変動額合計	25	25	28
当期末残高	32	32	4,230

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価をもって貸借対照表価額とし、取得原価との評価差額は全部純資産直入法により処理しております。(売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却方法

有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)を使用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～60年

工具、器具及び備品 6～10年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

- 1 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
当座貸越極度額の総額	500百万円	500百万円
借入実行残高	-	-
差引	500	500

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
短期金銭債権	1,523百万円	1,384百万円
長期金銭債権	91	-
短期金銭債務	4	39



(損益計算書関係)

- 1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	207百万円	294百万円
販売費及び一般管理費	44	48
営業取引以外の取引高	21	21

(有価証券関係)

前事業年度(平成26年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,164百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成27年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,164百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	- 百万円	3百万円
未払事業税	1	1
その他	0	0
小計	2	5
評価性引当額	2	5
合計	-	-
繰延税金資産純額		
繰延税金資産(固定)		
株式評価損	5	4
減損損失	2	2
繰越欠損金	575	404
資産除去債務	4	4
その他	4	3
小計	591	419
評価性引当額	591	419
合計	-	-
繰延税金負債		
有形固定資産	3	3
その他有価証券評価差額金	3	15
合計	7	19
繰延税金負債純額		
	7	19

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	当事業年度において、税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。
(調整)		
受取配当金益金不算入	82.8	
連結納税帰属受払い額	258.9	
評価性引当額	234.0	
税率変更による影響額	-	
連結欠損金	2.8	
欠損金期限切れ	294.6	
その他	11.0	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	256.9	

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行なわれることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.3%になります。

この税率変更による、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)の影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

子会社株式の譲渡

当社は、平成27年3月31日開催の取締役会において、当社の100%連結子会社である株式会社筆まめの全株式を、株式会社F P Jに譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しました。

(1)重要な子会社等の株式の売却の旨及び理由

当社では当社グループの更なる成長のために、経営資源の選択と集中に対する検討を慎重に重ねてまいりました。検討の結果、当社グループは、BtoBビジネスへの事業に経営の舵をきることが決定いたしました。

この決定を受け、BtoCビジネスを主とする株式筆まめの株式売却先を検討しておりましたところ、投資ファンドの運営などを主な事業とするACA Investments Pte. Ltd.が交渉先となり、最終的には、ACA Investments Pte. Ltd.のパートナーが設立した、S P C(特別目的会社)である株式会社F P Jに株式会社筆まめの全株式を譲渡することを決定いたしました。

(2)売却する相手会社の名称

株式会社F P J

(3)売却の時期

平成27年4月20日

(4)当該子会社等の名称、事業内容及び会社との取引内容

名称 株式会社筆まめ

事業内容 はがき・住所録ソフト「筆まめ」をはじめとしたソフトウェア製品の企画・開発・販売

取引内容 当社と当該子会社との間には、当社から当該子会社へのグループ経営における経営指導料を徴収する関係があり、当該子会社から当社への製品の販売及びサービス等の取引関係があります。また、当社と当該子会社との間に資金の貸付・借入の取引関係があります。

(5)売却する株式の数、売却価額、売却損益及び売却後の持分比率

売却前の所有株式数 2,000株(議決権の数:2,000個)(持分比率:100%)

売却株式数 2,000株

売却後の所有株式数 0株(議決権の数:0個)(持分比率:0%)

売却価額 450百万円

売却損益 350百万円(平成28年3月期第1四半期連結会計期間に計上予定)

(6)セグメント情報の開示において、当該子会社が含まれていた区分の名称

筆まめ事業

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却累計 額 (百万円)
有形 固定資産	建物	37	8	-	5	39	30
	工具、器具及び備品	5	4	-	2	8	11
	土地	0	-	-	-	0	-
	計	43	12	-	7	48	42
無形 固定資産	ソフトウェア	-	20	-	0	20	0
	電話加入権	0	-	-	-	0	-
	計	0	20	-	0	20	0

(注) 減損損失累計額については、建物および工具器具備品に関しては減価償却累計額に含めて、土地に関しては直接控除した金額を表示しております。

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	0	10	0	10

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告より行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.creo.co.jp/ir/settlement01.shtml">http://www.creo.co.jp/ir/settlement01.shtml</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株式は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第41期)(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)平成26年6月27日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその他添付書類

平成26年6月27日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第42期第1四半期)(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)平成26年8月14日関東財務局長に提出

(第42期第2四半期)(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)平成26年11月14日関東財務局長に提出

(第42期第3四半期)(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)平成27年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成27年6月18日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年6月26日

株式会社クレオ

取締役会 御中

監査法人ナカチ

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 吉永 康樹 印

業務執行社員 公認会計士 高村 俊行 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クレオ及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成27年3月31日開催の取締役会において、会社の100%連結子会社である株式会社筆まめの全株式を、株式会社F P Jに譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結した。また、売却の時期は平成27年4月20日である。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社クレオの平成27年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、株式会社クレオが平成27年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月26日

株式会社クレオ

取締役会 御中

### 監査法人ナカチ

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 吉永 康樹 印

業務執行社員 公認会計士 高村 俊行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第42期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クレオの平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成27年3月31日開催の取締役会において、会社の100%連結子会社である株式会社筆まめの全株式を、株式会社F P Jに譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結した。また、売却の時期は平成27年4月20日である。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。